

せんせいあのね（ぶんのつくりかた）

「せんせいあのね」では、さくぶんの かきかたについて がくしゅう するよ。

「を」「は」「へ」をつかって、いろいろな ぶんを つくってみよう。

「を」と「は」と「へ」

「を」と「は」の ちがいは わかるかな？
ぶんを つくるときには、「を」と「は」はもちろん、「へ」などを つかったりするんだ。

それぞれの つかいかたを イラストや れいを つかって せつめいするよ。

はをへをつかおう

ぶんを つくるときには、いろいろな 「ことばのメンバー」が ひつようなんだ。

ここでは、3つの メンバーを しょうかいするよ。



だいじな ことばのメンバー「しゅじんこう」

その ぶんしょうは だれについての ことなのかとか、なにについての ことなのかを あらわす ことばだよ。

その ぶんしょうの ちゅうしんに なる 「しゅじんこう」だね。

※「しゅご」というよ。

ぼくは ゆうしゃです。



れい：「ぼくは ゆうしゃです。」

この ぶんしょうは 「ぼく」が しゅじんこうだね。「ぼく」が ゆうしゃだということを つたえようと しているんだよね。



だいじな ことばのメンバー「もくてき」

その ぶんしょうの 「もくてき」が なにかを あらわす ことばだよ。
※「もくてきご」というよ。

ぼくは **ドラゴン**を
たおしに いきます。



れい：「ぼくは ドラゴンを たおしにいきます。」

この ぶんしょうは しゅじんこうの「ぼく」が なにを もくてきに しているのかを つたえようと しているんだよね。

そのほかの ことばのメンバー「ほうこう」

その ぶんしょうについて、もっと くわしく なにかを つたえたいとき
に つかわれる ことばの ひとつだよ。

たとえば、「ぼくは ドラゴンを たおしにいきます。」といわれても、
「どこへたおしにいくの？」と おもうひとも いるかもしれないよね。



そんなときに、「ぼくは ドラゴンを たおしに どうくつへ いきま
す。」と「ほうこう」や「ばしょ」を つたえると、もっと ぶんしょうが
わかりやすく なるよね。

ぼくは ドラゴンを
たおしに **どうくつへ** いきます。



どうくつ **へ** たおしにいく



はの つかいかた

「は」は、「しゅじんこう」の ことばを つかうときに、そのことばの うしろに くっつけて つかうんだ。

れい：「ぼくは ゆうしゃです。」

しゅじんこうの「ぼく」のあとに、「は」を くっつけるよ。

ぼくは ゆうしゃです。

ぼく **は**

しゅじんこうの
「ぼく」の あとに
「**は**」をつける



をの つかいかた

「を」は、「もくてき」になる ことばを つかうときに、そのことばの
うしろに くっつけて つかうんだ。

れい：「ぼくは ドラゴンを たおしにいきます。」
もくてきの「ドラゴン」のあとに、「を」を くっつけるよ。

ぼくは **ドラゴン**を
たおしに いきます。



ドラゴン **を**

もくてきの「ドラゴン」の
あとに「**を**」をつける



への つかいかた

「へ」は、もっとくわしく「ほうこう」や「ばしょ」をつたえるとき、その「ほうこう」や「ばしょ」を あらわす ことばの うしろに くっつけて つかうよ。

れい：「ぼくは ドラゴンを たおしに どうくつへ いきます。」

ぼくは ドラゴンを
たおしに **どうくつへ** いきます。



ほうこうや ばしょを あらわす
「どうくつ」の あとに「へ」をつける

